

## 任期満了に伴う 役員改選がありました

去る令和6年5月30日(木)に、令和6年度通常総会が開催されました。今年度は役員任期満了に伴い改選が行われる年度に当たります。総会の承認を得られ、各役員においても就任について快く承諾を得ることができましたので、改めてお知らせいたします。

退任された小泉洋吉前理事長をはじめ役員の皆様様のこれまでのご尽力に心より感謝申し上げます。新たに就任された上野理事には、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新体制	理事長	秋山 直道 (再任)
	副理事長	船窪 敏文 (再任)
	常勤理事	篠原 眞清 (再任)
	理事	五味 順子 (再任)
		前田 安雄 (再任)
		上野みよ子 (新任)
	監事	柴田 光明 (再任)

## =新理事長からのごあいさつ=

厳しい暑さが続く毎日ですが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

昨年度まで理事長の小泉洋吉様のご退任され、本年度からその職を担うことになりました秋山直道と申します。よろしくお願い申し上げます。

さて、本年度より市の文化財調査支援事業の発注方法が従来の随意契約から競争入札に変わりました。入札制度導入の初年度になりますので、今後市の対応を見極めながら、今後の事業への参加のあり方を検討してまいります。

昨年度は、新しい事業として「第1回うめのきウキウキフェスティバル」が11月18日に実施され、古道御岳道を巡るフットパスやマルシェなどに、寒い中でしたが350名程の参加があり、楽しい1日を過ごすことができました。今年度も第2回が企画されています。さらに充実した活動になるよう取り組みます。また、会員・職員研修事業など、様々な事業が予定されています。

今年度も、NPO法人の運営に皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げます。

## 令和5年度かやぶん事業

### ○縄文講座

NPO法人の佐野隆主任調査員を講師に、4月から7月まで全15回、縄文考古学を学ぶ場として縄文講座を開催し、概ね毎回30人から40人の参加をいただきました。



### ○かやぶん博物館研修旅行

去る令和5年10月21日(土)、千葉県にある「特別史跡加曾利貝塚縄文遺跡公園」を訪ねました。日本最大級の貝塚として知られる加曾利貝塚は、縄文時代を代表する遺跡として国の特別史跡に指定され、現在は15.1haが保存・公開されています。圧巻だったのは、貝層断面をそのまま保存・展示している「南貝塚の貝層断面観覧施設」です。巨大貝塚を作り上げた70種に及ぶ貝の重なりは、縄文中期から晩期にかけて



2000年にわたって繰返し集落の暮らしが営まれた加曾利貝塚遺跡のスケールの大きさを物語っていました。

### ○第11回伝統芸能研修会「明野のお神楽」

昨年11月12日(日)、明野町民俗芸能保存会による第11回伝統芸能研修会「明野のお神楽」が開催されました。コロナ禍で3年間中断を余儀なくされ、十分な練習ができないう状況の為、従来の一般公開ではなく、まずは保存会内部研修として各団体がお神楽を披露し、相互の研鑽と所作の理解に繋げる場として実施しました。



### ○第1回梅之木遺跡公園フェスティバル (通称：うめのきウキウキフェスティバル)

昨年11月18日(土)、史跡梅之木遺跡公園をメ

イン会場に、フットパス、マルシェ並びにワークショップを主な催し物とした梅之木遺跡公園フェスティバルを開催し、全体で概ね 350 人の参加がありました。

当法人が主体のフットパスでは、昨年度作成した「あけのお宝マップ」に掲載のウォーキングコースと、新たに設定した「音事協の森に隣接する金櫻神社一の鳥居までの古道御岳道」を組み合わせたコースを巡りました。スタッフが昔の修験者や参拝者等に扮して登場するサプライズ演出もあり、参加者の皆さんの好評をいただきました。



マルシェでは、「明野あったかマルシェ」のメンバーによる出店を中心に、キッチンカー、地元農家の販売や各種団体のブースなど20店舗が出店し、早々に売り切れの店舗が出る盛況振りでした。



ワークショップでは、梅之木遺跡ならではの縄文生活体験や、公園内の自然物で遊ぶ「しゅてるん(星)広場」等で、子どもから大人まで楽しんでいただきました。

全体として大きなアクシデントもなく無事終了することができました。企画段階から事業終了まで、ご協力いただいたすべての皆様に心よりお礼を申し上げます。

## 令和5年度の発掘調査

令和5年度の市内遺跡等調査支援業務は、1) 武川町西久保B遺跡の整理作業、2) 須玉町一道下遺跡の整理作業、3) 個人住宅等の開発に伴う遺跡調査、4) 武川町袋場(ぬたば)遺跡の発掘調査の調査支援を実施しました。このうち袋場遺跡の発掘調査では重要な発見が相次ぎました。

袋場遺跡は今から5300年前くらいの縄文時代中期中葉から4500年前の中期末葉にかけての集落跡です。中期中葉の竪穴住居を発掘したところ土偶の頭部破片と土器の口縁部に付けられていた人面形装飾がいくつも出土しました。これらは大きく、ていねいに製作されています。さらに竪穴住居内の貯蔵穴から人面形装飾がついた土器1点が出土しま



中期中葉の土偶

した。中期末葉では竪穴住居14軒、掘立柱建物跡数棟とともに配石遺構が発見されました。配石遺構とは墓、祭祀場としてつくられた施設で、多数の石を並べてあります。おおきく2ヶ所に分かれた配石に用いられた石は500個程度、総重量は約8トンありました。

さらに配石遺構には15基の埋設土器(縦に埋めた土器)が伴います。配石遺構の役割はまだ分かりませんが、配石遺構の下にはたくさん土坑(穴)がありそうです。

これらの土坑が墓なら、小児用甕棺と推測される埋設土器とともに中

期末葉の墓域と考えられるかもしれません。令和6年度の発掘調査の結果が期待されます。



8号配石遺構



9号配石遺構

## = 会員募集 =

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に活動して下さる方、ご賛同いただける方を募集しています。

**こんなことをやってみたい人は、ぜひ!**

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金 1,000 円

年会費 2,000 円

かやぶんかわら版 第91号

令和6年7月31日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所  
(かやぶん)

TEL/FAX 0551-45-7672

URL <https://kayabun.net>

e-mail [kayabun@hotmail.co.jp](mailto:kayabun@hotmail.co.jp)

